

事例番号:320076

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 6 日

1:40 陣痛発来、破水のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 6 日

4:57 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 6 日

(2) 出生時体重:3300g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.36、BE -2.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 4 日 退院

生後 14 日 発熱、哺乳不良、体のぴくつき出現、顔面・口唇・四肢の痙攣を認める

髄液検査で単純ヘルペスウイルス DNA を確認

(7) 頭部画像所見:

生後 14 日 頭部 CT で脳浮腫、頭部 MRI で多発性に信号異常を認める

生後 24 日 頭部 MRI で左大脳半球優位に脳室拡大や嚢胞状の信号異常を  
前頭葉から側頭頭頂葉にかけて認める

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、新生児ヘルペスにより脳炎を発症したことであると  
考える。

(2) ヘルペスウイルスの感染経路は、産道感染の可能性があるが、胎内感染または出生  
後の水平感染の可能性もあり、特定できない。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 入院時の対応(破水の診断、前期破水に対し抗菌薬投与)は一般的である。

(2) 分娩経過中の管理(分娩監視装置装着等)は一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

(1) 出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

(2) 生後 8 日の対応(体重チェック、補足を増やすように指示)および生後 13 日の対  
応(2 週間健診、体重チェック、哺乳についての指導)は、いずれも一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

妊産婦にヘルペス感染による皮膚病変等の臨床症状がみられない場合にも、新生児ヘルペスを発症する事例があるため、このような事例の調査・研究が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。